

1. 題材名 「すてきな言葉」 学級活動(2) ウ 望ましい人間関係

2. 題材設定の理由

●児童観

本学級の児童(23名)は明るく活発で、困っている友達に優しく声を掛けたり、友達と仲よく遊んだりする姿が多く見られる。一方、遊びの中で心ない一言を言ってしまったり、自分の思い通りにならないときに、相手を傷つける言葉を言ってしまったりすることがある。事前アンケートでは、「友達にいやな言葉を言ったことがありますか」は、はい7人、いいえ16人、「友達にいやな言葉を言われたことがありますか」は、はい7人、いいえ16人であった。また、「友達からうれしかった言葉を言われたことがありますか」は、はい22人、いいえ1人となった。この結果からも、うれしい言葉をたくさんの児童が言われている反面、いやな言葉を言ったり言われたりしている児童もいることが分かる。

学級集団としては、4月から、学校目標の4つの「心の花」、「がんばりの花」、「優しさの花」、「元気の花」、「安全の花」を基に、学級目標の「一生けんめい・協力・明るい・ゆう気」を児童に意識させながら学級作りに取り組んできた。係活動や集会活動では、友達と協力しながら、仲よく活動する姿が多く見られるようになってきている。

●教材観

3年生になると、交友関係も広がり、友達との関わりも多くなっている。関わりが増えることで、友達との間で相手を傷つける心ない一言を言うてしまうことも多くなる。また、そのことが継続したトラブルにつながり、人間関係を損なうこともある。この題材は、学級の人間関係の育成の一つとして年間指導計画に位置付けられているものである。生活の中の温かい言葉掛けを通して、自分の生活を振り返り、実践化していくことができる題材である。温かい言葉のよさを実感し、実践に生かせるようにしていきたい。

●指導観

指導にあたって、事前の活動では、事前アンケートとともにふわふわ言葉やちくちく言葉について考える場を設定する。それらの言葉をミライシードのふせんで書き出し、集計する。

本時では、「課題をつかむ(つかむ)」段階で、事前の活動で行ったアンケート結果やふせんに書いた言葉をグラフにまとめ、提示する。資料提示することによって、問題の焦点化を図り、ちくちく言葉が使われているというクラスの課題をつかませる。「原因を追求する(さぐる)」段階では、「どうしてちくちく言葉を言うてしまうのか」ということを中心に問題の原因について考えさせる。「解決方法を考える(見付ける)」段階では、クラスで普

段使われているふわふわ言葉に注目して、ちくちく言葉を減らしていくことともにふわふわ言葉をより増やしていこうという意欲付けを行っていく。そして、児童に先ほどの話合いや普段の生活を振り返らせてどうすればふわふわ言葉をたくさん使うようになるかを話し合わせる。「個人目標を自己決定する（決める）」段階では、見つけた解決方法をもとに、具体的な個人目標を決定させる。「いつ、どんなふうに」を明確にしたり、数字を用いたりするなど具体的な行動目標として「頑張りカード」に書けるようにする。個人目標が決定したら、ミライシードのふせんにその目標を書き、目標に「拍手」を入れたり、似たような目標で声を掛け合ったりしながら、児童の目標達成への意欲を高めるようにする。

事後の活動では、「頑張りカード」を掲示し、各自が個人目標を常に意識して行動できるようにする。また、帰りの会などで目標が達成できたかどうか振り返りの時間をとるようにする。

3. 目標

観点	目標
特別活動や生活への 関心・意欲・態度	自分の普段使っている言葉を振り返り、ふわふわ言葉を使っていこうと意欲的に取り組もうとしている。
集団の一員としての 思考・判断・実践	すてきな言葉を増やすために、クラスの課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。
集団活動や生活についての 知識・理解	すてきな言葉を増やすことの大切さ、そのためによりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

4. ICTの活用について

本時におけるICT活用場面

	活用場面	活用方法・ポイント	期待される子どもの姿・力
1	課題をつかむ場面	アンケート結果などの資料を提示する。	提示された資料を見ることでクラスの課題について気付くことができる。
2	原因を追求する場面	言われて嫌な言葉の集計結	嫌な言葉の集計結果を見て、どんな時に言っ

		果を表示する。	ているのかを考えることができる。
3	個人目標を自己決定する場面	決めた自己目標をふせんに入力して共有する。	全体の中で発表したり、同じ考えの友達を見つけることで、実践への意欲付けや、自分に合った目標への修正の機会とすることができる。

5. 指導計画（事前の活動・本時・事後の活動）

(1) 事前の活動

学習活動	○指導・支援上の留意点	【評価規準】（主な評価方法）
クラスのふわふわ言葉とちくちく言葉をミライシードで書き出させる。	○クラスの言葉の実態を把握し、自分の問題について考えておく。	【関】ふわふわ言葉やちくちく言葉を考えることで、普段使っている言葉に関心を持つ。（ワークシート・発言）

(2) 本時の展開

①日時 平成27年6月23日（火） 第5校時 於：3学年2組教室

②本時のねらい

普段使っている言葉が人間関係や学級の雰囲気に影響を与えることに気付き、相手の立場を考えた言葉遣いをすることができる。

③準備

タブレット ワークシート

④展開

	学習活動	○指導・支援上の留意点	【評価規準】 （主な評価方法）
導入	1 アンケートを基に、クラスにはふわふわ言葉とちくちく言葉がたくさんあることを知る。 ふわふわ言葉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう ・どんまい ・やったね </div>	○ふわふわ言葉やちくちく言葉がたくさんあり、その言葉でクラスの雰囲気や人間関係がよくなったり悪くなったりしていることに気付くようにする。 <活用場面1> ちくちく言葉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ばか ・あほ ・ださい </div>	
	2 めあてを確認する。		

クラスにすてきな言葉をもっとふやそう		
展開	<p>3 なぜちくちく言葉を使ってしまうのか原因を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・はらが立つから ・イライラするから ・まけたくないから </div> <p>4 みんなで話し合い、ふわふわ言葉がクラスに増えるようにするにはどうすればいいか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考える ・友達のよいところを見つける </div>	<p>○ちくちく言葉を言ってしまう原因を探る。 <活用場面2></p> <p>○腹が立ったり、イライラしたりと自分の気持ちを言葉にのせて相手にぶつけていることに気が付かせるようにする。</p> <p>○ふわふわ言葉に注目させて、相手が嫌な気持ちになるよりも、うれしい気持ちになる方がよいクラスになるのではないかと投げかける。</p> <p>○様々な解決方法が出し合えるようにアンケート結果から、「がんばっているとき」や「体調が悪いとき」などの場面を想像させるようにする。</p>
終末	<p>5 自分の課題に合った「努力すべきこと」を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしいことがあったら「ありがとう」をかならず言う ・きつそうな友達に「だいじょうぶ」と声をかける </div> <p>6 互いに自分の努力することを発表し合う。</p>	<p>○自分自身の課題を確認できるようにし、何をどのように努力したらよいかを考えて、より具体的な自己決定ができるようにする。 <活用場面3></p> <p>○互いの頑張りについて、励まし合えるようにする。</p> <p>○ミライシードでふせんを書き込み、よいと思った意見に拍手したり、似たような意見の友達と励まし合ったりしながら意欲を高めるようにする。</p>


【思考・判断・実践】
 ・友達の意見を参考にしながら、すてきな言葉について考え、どのように生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。(頑張りカード・観察)

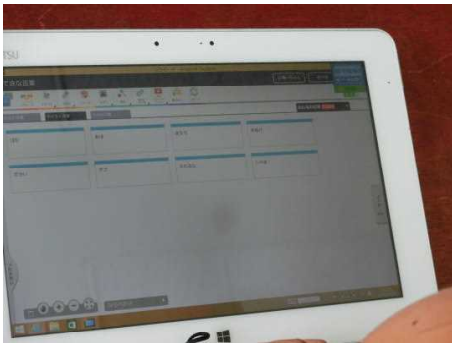

(3) 事後の活動


学習活動	○指導・支援上の留意点	【評価規準】(主な評価方法)
頑張りカードの振り返りを通してふわふわ言葉が増えたのかを確認させる。	○自分の立てためあてや取組を振り返ったり、友達同士で取組を確認し合ったりすることができる。	【思】話合いを基に、言葉遣いについて考え、どのように生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。 (頑張りカード・観察)

ご指導のほどよろしくお願い致します。

6. 指導の実際

	学習活動	指導の実際
導入	<p>1 アンケートを基に、クラスにはふわふわ言葉とちくちく言葉がたくさんあることを知る。</p> <p>※事前アンケートの結果を電子黒板に提示する。 ※ちくちく言葉を強調して提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">★活用場面1 課題をつかむ場面</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">★活用場面1の方法と効果 提示された資料を見ることでクラスの課題について気付くことができる。</div> <p>2 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">クラスにすてきな言葉をもっとふやそう</div>	<p>T: このクラスには、ちくちく言葉がこんなにたくさんあるね。 C: ・ばか ・あほ ・ださい T: ふわふわ言葉もたくさんあるんだね。 C: ・ありがとう ・がんばってね ・やったね</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>【電子黒板を活用してアンケート結果を知る】</p>

<p>展開</p>	<p>3 なぜちくちく言葉を使ってしまうのか原因を考える。</p> <p>※事前アンケートの結果を電子黒板とタブレットPCに提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★活用場面2 原因を追求する場面</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★活用場面2の方法と効果 嫌な言葉の集計結果を見て、どんな時に言っているのかを考えることができる。</p> </div> <p>4 みんなで話し合い、ふわふわ言葉がクラスに増えるようにするにはどうすればいいか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★活用場面3 個人目標を自己決定する場面</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★活用場面3の方法と効果 全体場で発表したり、同じ考えの友達を見つけることで、実践への意欲付けや、自分に合った目標への修正の機会とすることができる。</p> </div>	<p>T：どうしていやな言葉を使ってしまうんでしょうね。</p> <p>C：人に言った言葉にいらいらしたから。</p> <p>C：ばかにしてたから。</p> <p>C：ふざけていたから。</p> <p>C：けんかしたから。</p> <p>T：どの言葉も相手のことを考えていないからだね。</p> <p>T：どうやってありがたい言葉をふやしていこうか。</p> <p>C：消しゴムを拾ってもらったときに言う。</p> <p>T：それはどんな気持ちの時。</p> <p>C：よかったなって思う時。</p> <p>C：うれしかったときに言う。</p> <p>T：グループで話し合いをして、ふわふわ言葉を増やす方法はどんなものが出てきましたか。</p> <p>C：友達が落ち込んでいるときに、「どんまい」って言う。</p> <p>C：友達がひとりぼっちにいるときに、「一緒に遊ぼう」って声をかける。</p> <p>C：友達に「ありがとう」って言う。</p>	 <p>【タブレットPCで原因を追究する】</p>  <p>【タブレットPCでふわふわ言葉を増やす方法を話し合う】</p>
-----------	---	--	---

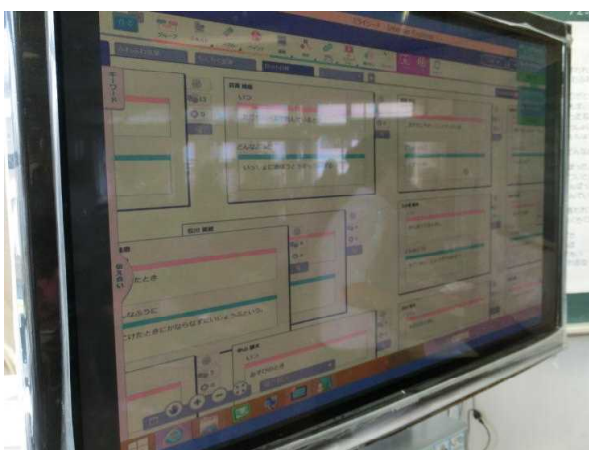
終末	<p>5 自分の課題に合った「努力すべきこと」を決める。</p> <p>6 互いに自分の努力することを発表し合う。 ※タブレットPCの付箋に<input data-bbox="178 421 612 548" type="text"/>する。よい意見の付箋に拍手する。</p>	<p>T：クラスにふわふわ言葉を増やしていくためにこうしたいという目標が決まったら、ワークシートに書き込みましょう。それが終わったら、タブレットPCの付箋に<input data-bbox="619 481 976 548" type="text"/>しましょう。</p>	 <p>【タブレットPCに個人目標を書く】</p>
----	--	--	---

7. 成果と課題

(1) 成果について

【着眼1】各活用場面での期待する効果と活用のポイントを明確にする
本時の主眼を達成するために3つのICT活用場面を設定した。

まず、活用場面1では、児童の反応からも、アンケート結果から課題を強調して提示することで課題に注目することができた。活用場面2では、アンケート結果を個人で見ることで、自分と同じ言葉、自分とは違う言葉を確認する中でどんな時に言っているのかを考えるきっかけになった。活用場面3では、決めた自己目標をふせんに入力することで、①同じような自己目標を見つけることで安心して入力できた。②入力された内容が随時反映されていくので、書く



ことに困っている児童が参考にできた。③普段発表できない児童の意見も見ることができて考えが深まった。④自分の目標に拍手がつくことで、安心感が出たり、自信につながったりした。特に、③・④では、普段発表できない児童の意見は短冊黒板などを活用しない限り、クラス全員の目に触れることはなかったが、タブレットPCを活用することで、全員の目に触れ、それぞれの児童が拍手をすることで、自分自身の意見のよさが付き、回数を重ねることで、全体の場で発表するきっかけになるのではないかと考える。

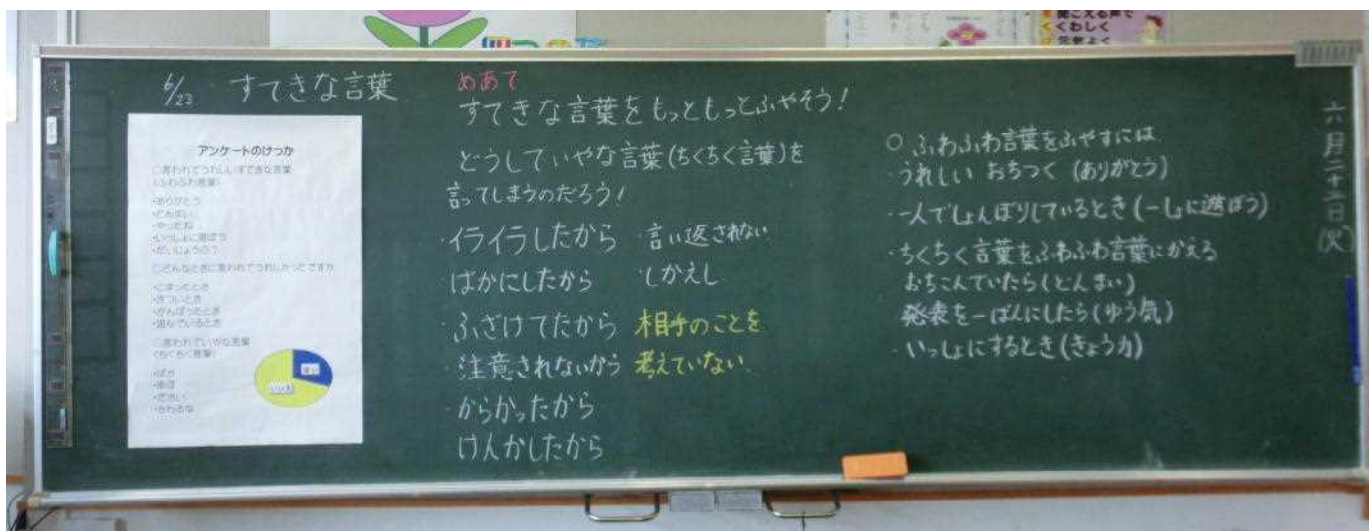
【着眼2】児童同士の「対話」に重点を置きながら、一人一人の児童の理解をより深める

児童アンケートの「友達と話し合うことで、自分の考えが出ましたか？」の質問に対して、児童23名のうち、21人が出たと答え、2名が出なかったと答えた。また、児童の振り返りの中でも、友達意見を聞いて自分もありがとうをたくさん言おうと思ったとあった。タブレットPCを挟んで話し合うことで、話し合う材料が常に提示されているので話合いがぶれないことと、資料の切り替えがスムーズに行えることが非常に大

きいと考えられる。またタブレットPCをのぞき込みながら話し合うことで、距離感が狭まり、話し合いやすい雰囲気ができていたのではないかと考えられる。

【着眼3】黒板（板書）とICT、それぞれの活用範囲を明確にする

授業の中で、電子黒板には、アンケート結果やタブレットPCに入力している様子を映し、黒板には、ちくちく言葉をなぜ言ってしまうのかやふわふわ言葉を増やすためにはどうしたらいいかなど児童の意見を書くようにした。電子黒板では、イメージをさせやすいように動いたり、強調したりする視覚的な刺激を用いた。黒板は、児童の意見を順に書くことで、児童の思考を整理し、ふりかえりができるようにした。電子黒板と黒板の使い分けはできたと考えられる。



(2) 課題

- 児童がタブレットPCの操作を修得するまでの時間が別に必要なこと、中学年の児童にとって、自力解決できるまでには至っていないことがあげられる。
- 児童自身の考えがないと、書けないことは紙ベースでもタブレットPCでも同じで、その部分を普段の授業から育てていかないといけない。
- タブレットPCを使っでの対話の際に、話し合いの仕方や見せ方、操作の手順など学年の発達段階に応じたものを決め、系統的に指導できるようにしていく必要がある。